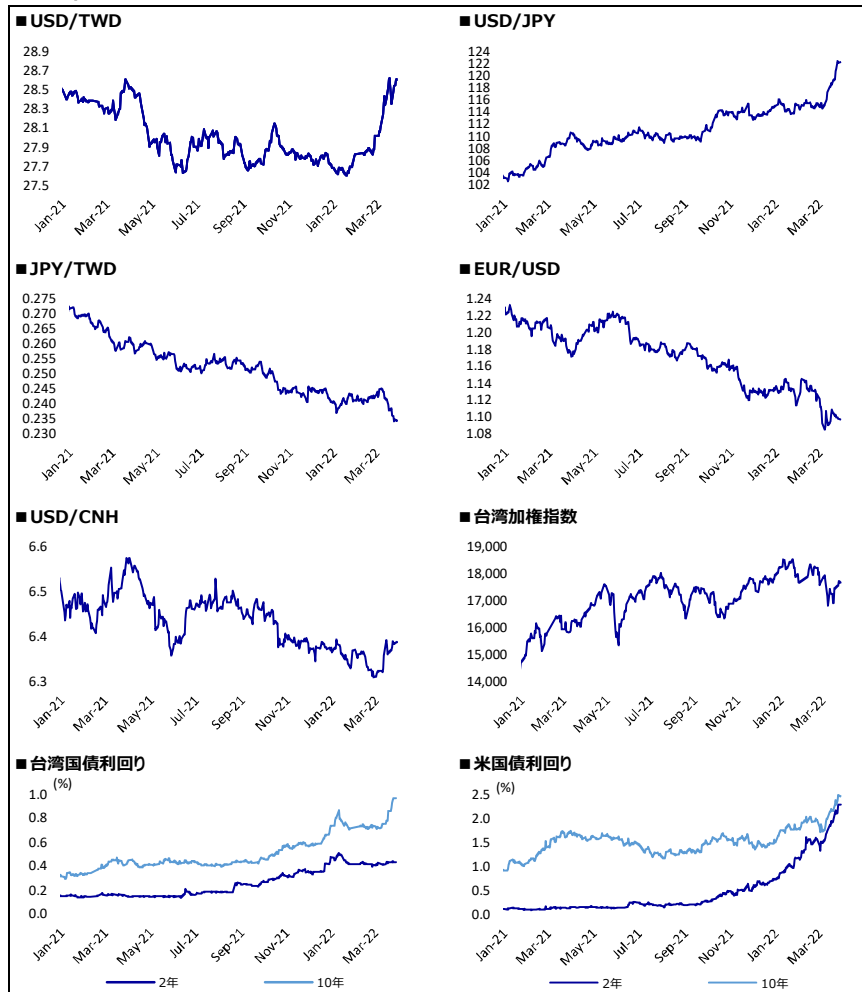


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初3/21は28.360でオープン後、台湾と米国の金利差が意識され、投資資金の流出や輸入企業のドル買いから一時節目の28.500をつけた。3/22は前日にパウエルFRB議長が講演でインフレ抑制のため50bpの利上げを示唆したことから、米金利の上昇につられドル買いが優勢となり、28.58付近まで上昇。しかし、その後は輸出企業のドル売りも入り、上値は押さえられた。3/23は外国人投資家が株を買い越したものの、米金利の上昇を受けた海外への資金の流れは続いており、売り買い交錯し28.55付近の狭いレンジでの推移となった。3/24は米金利を意識したドル買いが優勢で28.60付近で推移し、3/25も28.635まで上昇したが、輸出企業は様子見し、商いも少なくなると28.61付近のレンジで推移。最終的に先週比0.9%ドル高台湾ドル安の28.613で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は161.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初3/21は119.17でオープン後、東京休日で動意に乏しかったが、パウエルFRB議長が講演でインフレ抑制を重視し、50bpの利上げを示唆したことから、次回5月のFOMCでの50bpの利上げへの期待が高まり、米金利が上昇。つられてドル円も上昇すると、3/22に入ると120円台に入った。その後、119円台に戻す場面も見られたもののドル買いは継続し、120円台に再突入すると、じりじり上昇し、121円台をつけた。3/23は利食いの動きも見られ、120円台半ばまで戻す場面もあったが、FED高官からタカ派発言が相次いだことで、121円台に戻した。3/24もドル高の流れを引き継ぎ、じりじりと上昇すると122円台にのせ、3/25には122.44まで上昇。しかし、米金利の上昇も一服し、ドル円も調整の動きが入ると、121円台前半まで下落。一巡後は121円台半ばまで戻したが、ウィリアムズNY連銀総裁が「1会合で50bps利上げが適切ならそうすべきだ」との発言を受け、米金利が上昇するとドル円も122円台に戻した。その後は週末を控え小動きとなり、最終的に先週比2.5%ドル高円安の122.10で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：28.500-29.000
今週は月末週であり、輸出企業のドル売りもみられるであろうが、足許は米国の利上げベースに注目が集まっており、米金利の上昇が続いており、台湾ドル安を見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：121.50-124.50
引き続き、米金利の上昇につられたドル買いが続くと見込む。今週は米3月雇用統計等の重要な経済指標の発表を控えており、米国経済の堅調さが確認できれば、もう一段ドル買いが進むであろう。ただし、急激な円安進行に対して日本当局も警戒をしており、本邦当局の動向にも注意したい。

今週の予定

3/28 (MON)	
3/29 (TUE)	米3月消費者信頼感指数
3/30 (WED)	米3月ADP雇用統計、米Q4GDP確報値
3/31 (THU)	米2月個人所得・消費
4/1 (FRI)	米3月雇用統計、米ISM製造業景況指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。